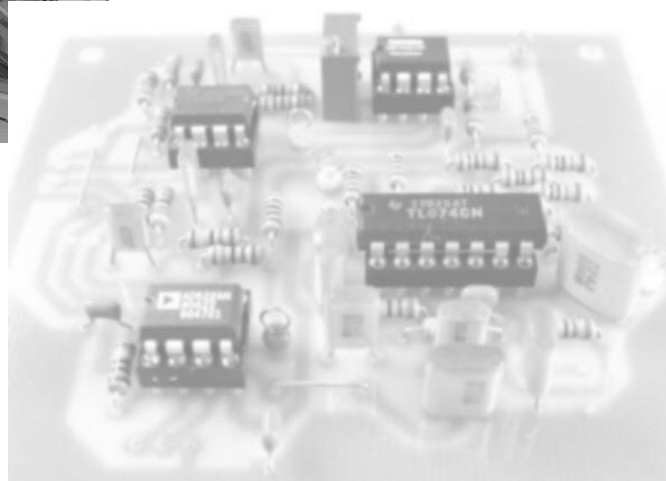
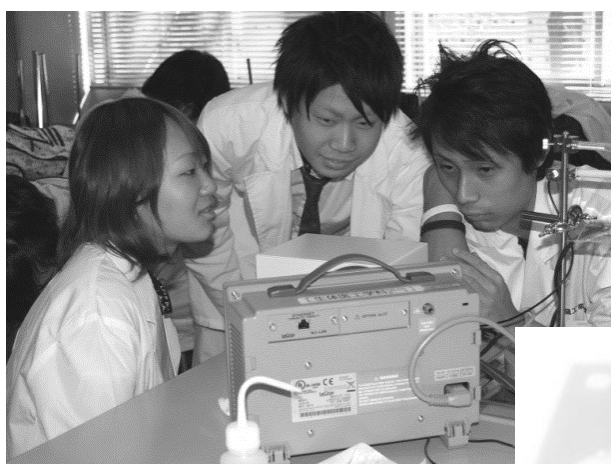


ティーチング・ポートフォリオ



大学名 東京都市大学
所属 理工学部 医用工学科
名前 京相 雅樹
作成日 2021年8月3日
改定日 2022年3月7日

1. 責務

(1) 授業担当

下記の一覧に示す科目を担当している。多くの科目で主担当としてシラバスの執筆と成績登録を担当している。

科目名	対象・開講	必選	主	科目名	対象・開講	必選	主
SD PBL(1)	1年・前期	○	○	技術者倫理	3年・前期	○	○
医用工学リテラシー	1年・前期	○	○	医用機器	3年・前期	△	○
再・医用電気基礎論	1年・後期	△	○	医用安全工学	3年・前期	△	○
SD PBL(2)	2年・前期	○	○	計測工学(2)	3年・前期	△	○
医用電気回路	2年・前期	○	○	生体電子計測	3年・前期		○
医用電子回路	2年・前期	○	○	事例研究	3年・後期	○	○
生理学及び実習	2年・後期	○	○	医工学英语	3年・後期	△	○
計測工学(1)	2年・後期	△	○	卒業研究	4年・通年	○	
プログラミング応用	2年・後期	△	○	生体計測工学特論	院・後期		○
医用工学応用セミナー	3年・前期	○	○	電気・化学実習Ⅰ・Ⅱ	院・前後期	○	
臨床機器学及び実習	3年・前期	○	○	電気・化学特別研究Ⅰ・Ⅱ	院・前後期	○	

(2) 教務委員

学科設立準備の段階(2005年度)より、教務委員として学科カリキュラムを含む教育内容の設計と改良を継続的に実施している。

(3) クラス担任

学生の大学生活を中心として、学生自身に合った学修を進められるよう、学生と相談を重ねながらサポートを行っている。

(4) 世田谷キャンパスラーニングコモンズアドバイザー

2015年度から世田谷キャンパスに設置されたラーニングコモンズにおける学修サポートについて、学生団体であるラーニングサポーターのとりまとめを行うとともに、サポーターと教職員の間のコミュニケーションを図っている。

(5) 教育開発機構委員

2017年度から教育開発機構の委員として、全学的な教育施策の立案と実施に関わっている。2019年度からは教育開発室長、2021年度からは副機構長として全学的な教育の方向性に関わる業務にも携わっている。

2. 理念

- (1) 学んでいる内容が、社会とどのようなつながりを持つのか、学んだ結果をどのような場面に生かせるのかを意識してもらうことを重視している
- (2) 学科のカリキュラム全体の構造や科目間の関連性、役割分担について学生が理解して学修を進められるようにすることを重視している
- (3) 学ぶこと自体に興味や面白さを感じてもらうための授業を心がける
- (4) 学修の過程において学生同士および学生と教員間のコミュニケーションを心がける
- (5) 学んだことを丸暗記するのではなく、理解することにより、問題解決に学んだことを生かせる能力が身につくと考えている

3. 方法

- ✓ 基礎的な知識に関する科目においても知識のみを詰め込むのではなく、科目の内容と他との関連性についても必ず触れる
- ✓ 授業を受講したら授業内で小テストや演習を行い、極力間をおかずに確認することで問題解決へのアプローチの方法をその場で定着させることを目指す
- ✓ 小テストは個人の能力を測るためではなく、互いの情報交換を可として教え合いによる学習効果の向上を図っている
- ✓ 小テスト、試験の返却時にはひとりずつ名前を呼んで返却し、各学生の顔と名前、さらにその科目での出来具合を把握できるようにしている
- ✓ 各科目と他の科目との関連性について頻繁に触れることにより、カリキュラム全体としての意味について理解させながら学習させるように努めている
- ✓ 質疑応答の場面では、どのような内容でも良いので積極的に発言するよう、促している
- ✓ 集中力が切れないようにしてもらうため、授業内容に関連した閑話休題的な話題を盛り込みながら、時折場面転換を図りながら授業を進めることを心がけている
- ✓ 可能な限り、マイクを使わず、肉声で授業を行う
- ✓ 座学では、小テストを毎回実施し、その日に行った授業の確認を自らの手を動かして実施し、定着を測っている
- ✓ 授業での配付資料は印刷物および電子データ両方での提供に努め、どのような場面でも利用可能な資料作成を行っている
- ✓ 教科書は参考または詳細情報を得る補助資料としての利用にとどめ授業の流れに沿ったオリジナル資料を作成している

4. 成果

- ✓ 評価アンケートに興味を喚起された、あるいは周辺知識とのつながりが分かった旨のコメントが多い

5. 目標

- ✓ 科目に対する興味を喚起したり，理解を促進したりするために授業外学習時間の使い方を工夫したい
- ✓ 現在時間がなく，できていない比較的大きな授業内容の再構築を実施したい

【添付資料】

[参考文献]

- (1) 平成 30(2019)年度教育年報，pp.143-145，「プログラミング応用」における反転授業完成への長い道のり
- (2) 平成 20(2009)年度教育年報，pp.94-97，平成 20 年度技術日本語表現技法実施事例報告
- (3) 平成 19(2008)年度教育年報，pp.71-77，平成 19 年度機械工学セミナー実施報告
- (4) 平成 19(2008)年度教育年報，pp.78-83，平成 19 年度フレッシューズセミナー実施報告
- (5) 平成 19(2008)年度教育年報，pp.100-112，平成 19 年度技術日本語表現技法実施報告
- (6) 平成 17(2006)年度教育年報，pp.96-99，Web ページを用いた理解度の把握と向上の試み

[著書]

- (1) 和田成夫，小松聡，京相雅樹，吉田俊哉，植野彰規，田中康寛，安藤毅，専門基礎ライブラリー 電子回路，実教出版，2019 年 12 月
- (2) 野中謙一郎，渡邊力夫，島野健仁郎，京相雅樹，白木尚人，技術レポート作成と発表の基礎技法，コロナ社，2008 年 11 月